



緑肥・緑化の部屋 12

～環境保全の実践を目指して～

タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

Q ハウスで野菜を栽培していますが、前作の肥料分が相当残っているようです。緑肥作物を利用してそれらの肥料分を減らすことができますか？

A 土壤中にチッソやリンなどの塩類が過剰に集積されると、塩類障害が起きてしまいます。その除塩対策としては、一般的に以下の方法があります。

- ①深耕処理（土壌を深く耕し、表層に集積した塩類の濃度を希釈する）。
- ②湛水や灌水・降雨により土壌中の塩類を洗い流す（明渠など、排水路の確保が必要）。
- ③稲わらなど、C/N比が高い有機物を投入する（土壌中の微生物が有機物を分解し、過剰なチッソが減少する）。

さらに第4の方法として、クリーニングクロップ（緑肥作物）の利用も手段のひとつです。これは、比較的耐塩性の強いソルガムなどを栽

培し、それらクリーニングクロップに過剰な塩類を吸収させ、生育したものを収穫して圃場の外にもち出すという手法です。

土壌の塩類濃度を計測する値として、EC（電気伝導度）というものがあります。一般的には、ECが1.0 mS/cm（ミリジーメンズ/cm）以上あれば、何らかの対策が必要といわれています。これまでの研究では、ソルガムなどのクリーニングクロップを利用して土壌のECを1.5 mS/cmから0.5 mS/cmまで減少させた事例が報告されています。

また、緑肥作物を利用した場合、塩類集積のみならず、ソルガムなどの根が土壌中に伸び、土壌の通気性や透水性が改善されるというメリットもあります。

**土壌の塩類障害対策に！
吸肥力が旺盛で初期生育が早い！**

ソルガム 緑肥用ソルゴー

〈播種期〉

暖地：5～8月

寒地：6～7月

〈播種量〉

4～6 kg/10a

〈注意〉

塩類濃度（EC）が1.5以上を示す後地土壌へのソルガムのすき込みは、塩類障害を助長する危険性があります。このような土壌では茎葉を外へ運び出し、養分の不足している土壌にすき込みます。

